

国内研修成果報告書

今回、私は島根県の雲南市に研修に行ってきました。雲南に行きたいと思った経緯は、フィールドスタディ入門の講義で雲南市でまちづくりを行っている矢田さんの話を聞いてとても関心を受け興味を持ちました。そこで、実際に行ってみて見学してみたいと思い参加しました。

まず、雲南市の現状としては、東京23区ほどの面積で人口が約4万人で、平成16年に6つの町が合併して誕生しました。現在、高い人口減少と高齢化率が36.8%と4人に一人は高齢者という現状です。まちづくりの担い手の高齢化が進む中で、多様な課題に取り組む次世代の育成が必要と考え、「幸雲南塾」という地域プロデューサー養成講座を開講し、地域の課題解決、地域貢献の実戦の場となる組織を作りました。そして、幸雲南塾の活動を継続的にサポートする組織の「おっちラボ」というNPOの中間支援組織が設立されました。そこの代表が講義をしたくれた矢田さんで、「今回の研修で多忙の中、一緒に活動をしてくださいました。おっちラボのメンバーは、幸雲南塾の卒業で、保健師、弁護士、コンサルタント、ファンドレイザーなど多様な人がいて、いろいろ視点から活動を支援したりしています。

雲南市は、おっちラボなど様々な人たちと協力して、「子ども×若者×大人 チャレンジの連鎖による持続可能なまちづくり」を行っています。先ほどの「幸雲南塾」や古民家を改修し若者の交流拠点や異文化交流イベント、図書館の無い地域に図書館を作るプロジェクト、

塾生と地元医学生による「ガン検診プロジェクト」「まゆちゃんの宅配便（独立高齢者の見守りと買い物支援）」、地元高校生との座談会や意見交換などたくさの事業・活動が行われています。

幸雲南塾は「ヨソモノを巻き込みともに成長する」を軸として現在卒業生が78名で、さまざまな事業、活動が生まれました。その中でも、私が関心を受けたのが、雲南市は高齢化が進んでいて、要介護率も高いそうです。そんな中で地域に介護力の低下、若手医療の人材不足などの今、雲南のよう中山間地での訪問看護のビジネスモデル化を行い、在宅医療の空白地帯となっていた地域で訪問看護ステーション「コミケア」をオープンして、世代間交流施設の一面を借りて活動しています。実際、コミケアに見学に行き、話を聞いて、地域づくりを医療の面から考え、病院からあふれている患者さんたちや、自分の家で死にたいと思う看取り文化などそれらのニーズに合わせて行ってほしいと思いました。訪問看護は週に1回で、「ほほ笑み」という地域交流サロンがあり、週に1回地域の高齢者たちが集まって、お話をしたり、ゲームをしたり、健康体操などを行っています。そこで軽い診察や相談を受けたりし地域の高齢者たちの体調を管理、健

康づくりの活動をしています。私たちの研修でタイミングよく「ほほ笑み」でサロンのほうがあったので、話を聞いた後に、地域の人たちと一緒にお茶を飲んで、お菓子を食べ、健康体操をしたりと充実した時間を過ごすことができました。

地域の方とお話をしていると、高齢者の方たちが、昔の街並みの様子や今の生活の話をしてくれて、「最近では若者も全然見ないし、子どもの声なんて全く聞こえないから寂しいよ」と語っているのを知り、私若者からした何も思わないことを地域のひとたちは悲しそうに言っていました。私たちがサロンに来て一緒に活動をしてくれるから、「自分も若返ったみたい」「元気もらえたよ」など、とても優しい言葉をかけてくれました。そこで私も雲南に来てよかったと思いました。雲南市は自殺率が高く、島根県内でも4位と高い数値がでているようです。高齢者の自殺、家族心中などが多く、精神的な面での支えも必要だなと思いました。この訪問看護は、その自殺予防などにもつながっているのでもっと参加率が増え、地域の見守りとしてできたら活動ももっと広がると思いました。

丸々1日、おっちラボの活動に参加しました。そこで、おっちラボの説明なども受けましたが、矢田さんが「よし、地域に出ちゃうか。」とパワフルな矢田さんと共に、実際に地域に出で、地域の方々とお話をしながら、おっちラボのチラシを配りながら自分たちで理解していくという素晴らしい体験をさせていただくことができました。地域の方たちも初めての私たちを優しく受け入れてくれて、世間話をしたり、地域の文化を聞いたり、授業では習えないことまで学ぶことができました。そして、地域の方に私たちのことを理解してもらうために工夫をして話したりと、普段の学校や生活では絶対しないことができたりと良かったと思います。

雲南市は、各自治体の力や活動が強いと思います。まちづくりの原点は主役である市民が、自らの責任により主体的に関わることを基本とし、地域によって人口や財源力も違いますし、その地域にあった形で、地域の活動やまちづくりを行っていると思います。

小学校単位で地域を分けて、中でも「通学合宿」や廃校になった小学校を使って地域のマーケットを開き、高齢者の方がわざわざ遠くまで行かなくても必要最低限度の買い物ができ、そのマーケットまで車での送迎があると知り、このような活動を行っている地域はなかなか無いと思うので、いい勉強になりました。

私がこの研修でとても興味があってぜひ見学したかったのが「温泉キャンパス」です。NPO 法人カタリバさんが行っていて「中高生の幸雲南塾」で普段出会えない大学生や社会人と将来や地域について考えたりを行っています。その中でも、「温泉キャンパス」とは、不登校児・生徒の学校復帰・継続登校・進路実現のための教育支援センターを拠点に活動しています。実際に温泉キャンパスを見学して、私の中の不登校のイメージを大きく変えました。不登校は家に引きこもって暗いイメージでしたが、温泉キャンパスの生徒は皆、笑顔で沢山動いたり、料理を作ったり、楽しそうに過ごしていました。雲

南市は不登校率が高いそうです。原因はさまざまですが、人口が少ないということでメンバーなども変わらない、そのまま中高生になってしまい不登校になってしまうという流れも起きているようです。

そのために温泉キャンパスでは、学校と行政と協働で不登校児の継続的な登校、再登校につながるようにフォローを行っている。学生はそれぞれ自分の興味のある分野の授業を受け、

一生懸命楽しそうに活動しているのを見て、このような場を作れたら不登校になっても、社会復帰にも繋がるし、再登校にもつながり悪循環をなくし地域を良くしていこうという取り組みが本当に素晴らしいと思いました。生徒だけでなく、親の相談会や座談会を行うことで子どもだけでなく親も繋がりをもって生活することでみんなが笑顔になると知り、この活動を他の地域やまちづくりを行っている地域は大変いい手本になると感じました。

今回雲南市に研修で行き、三泊四日でしたがとてもたくさんのことを学べたと思います。

まちづくりと言えば、観光資源を探しそれを活かしたり、何か新しい物を作ったりして活性化をしたいと思います。雲南は今ある現状をしっかり把握し、行政だけでなく住民やIUターンの人、高齢者、若者、子どもなど多様な世代で多様なアイデアを利用してまちづくりを行っているのが珍しいし、素晴らしいと思いました。先生たちが言うように大学の講義を受けているだけでは全然学べない。という言葉の意味が分かりました。実際に出てみることで現場の人たちと会話し、地域住民と話すことで本当に大切なこと何なのかを学べるということができました。本当に参加できてよかったです。これがきっかけで他のまちづくりにも興味を持ちました。また国内研修に参加したいです。